

# 本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2015年10月1日発行 (毎月一回発行) 第693号

ISSN 0286-7001

## 出会い・本・人

柄谷行人の著作 福嶋 揚

宮村武夫 著

宮村武夫著作8

ヨハネに見る手紙牧会 小林高德

## 本・批評と紹介

一致に関するルーテル＝ローマ・カトリック委員会 著  
ルーテル／ローマ・カトリック共同委員会 訳

争いから交わりへ 西原廉太

及川 信 著

主の祈り 藤掛順一

土岐健治 著

七十人訳聖書入門 村岡崇光

A.E.マクグラス 著／佐柳文男 訳

憧れと喜びの人

C.S.ルイスの生涯 本多峰子

本屋さんが選んだお勧めの本

近刊情報

書店案内

S.R.ベイス 著／佐柳文男 訳

はじめてのニーバー兄弟 高橋義文

袴田康裕 訳

ウェストミンスター小教理問答 山口陽一

マーク・イーリー 著／竹内謙太郎、田代弘子、石田雅嗣、工藤マナ 訳

学び直すリタジー 市原信太郎

フィン・セーボー 著／野沢みどり 訳

お役所仕事に万歳四唱 松平信久

10 OCTOBER  
2015



# 翼をもつ言葉

## 説教をめぐるバルトとの対話 ウイリアム・ウイリモン著 / 宇野元詠

北米を代表する実践神学者ウイリモンが、バルトの説教および説教論と正面から取り組み、時にはバルトを批判しながら、

現代における説教者のありかたを徹底的に考察した大著。著者は、自らが牧師としていかに多くをバルトに負っているかを感謝と共に告白する。そして、従来組織神学者としてのみ論じられ、ほとんど光を当てられてこなかった説教者としてのバルトから、深く学ぼうとするのである。



9月24日

◆ウイリモンの既刊書から

**牧師 その神学と実践** 越川弘英ほか訳

◆A5判・本体5000円

# 近代化への挑戦

## ベイルートのアメリカン大学と京都の同志社 アレクサンドラ・M・コビルスキ著 / 北垣宗治訳

グローバルな視点から見直す同志社成立史。アラブと極東のこの2つの大学は共に、19世紀後半、アメリカン・ボードの支援を受けて建学された。両大学の設立経緯を丁寧に追跡し、近代的高等教育をめざしたアメリカ人宣教師、アラブ知識人、そして日本の教育者たちのそれぞれの思想を検討しながら浮かび上がる共通性と差異。画期的な視点からなされた比較研究。

◆A5判・本体2800円

■既刊書から ポール・グリーシー著 / 北垣宗治訳

**同志社の独立 ミッション・スクールからの脱皮**

◆A5判・本体4000円

9月24日

NHK連続テレビ小説「あさが来た」ヒロインのモデルの著書

# 人を恐れず天を仰いで

## 広岡浅子著

復刊『二週二信』



天を仰いで、人を恐れず。著者は企業経営に辣腕をふるい女性実業家の先駆けとなった。女性の自立と教育にも関心を寄せ、日本女子大創設に尽力。還暦を過ぎても大阪教会で受洗。本書は自らの剛毅な信仰観を瑞々しい筆致で綴った著書。解説は影山礼子氏。

◆B6変・本体1700円

読売新聞書評欄にて前田秀樹氏絶賛。

# 実践する神秘主義

## イヴリン・アンダーヒル著 / 金子麻里訳



20世紀前半、神秘思想に関する多くの著作を著し、英国国教会で黙想会の指導者としても活躍したアンダーヒル。本書は、一般の人々にも届く言葉でキリスト教信仰の霊性を再解釈・再評価した名著であり、今なお広く読み継がれている。

◆四六判・本体2100円



## 出会い・本・人

### 柄谷行人の著作——福嶋 揚

学生時代に『マルクスその可能性の中心』を手にしてから四半世紀、柄谷行人の著作を読み続けてきた。海外に行く時、機中で柄谷氏の著作を読む。国境を越える時にも意義を失わない、強靱な思想であると感じるからだ。

柄谷氏の肩書きは「評論家」や「哲学者」となっている。しかしその著作群は、通常のいかなる分類にも収まらない独創的な思考の結晶である。それはまた、一切の無駄をそぎおとした鋼鉄か氷のような文体を持っている。私は柄谷氏のテキストによって、魅了されると同時に突き放され、絶望させられると同時に解放されてきた。その思想が自分にとって劇薬であるのか栄養であるのか、長い間わからなかった。

九十年代の半ば、私は洗礼を受けて神学を学び始めた。その頃しばらく柄谷氏の著作を読めなくなった。キリスト教信仰によって、柄谷氏の著作は「異教的」でも「護教的」でもない、名状しがたいXだった。

二〇一一年、震災と原発事故が起きた。それは私にとって、既存の価値や権威を崩壊させる出来事だった。だがその時、それまで名状しがたいXであった柄谷氏の思想が、危機的な状況に真の意味で対抗する理念と運動であることが見えてきた。画期的な大著『世界史の構造』の中心概念である「交換様式D（＝X）」は、

資本・ネーション・ステートという「ボロメオの輪」を超越する未来の理念として、キリスト教の「隣人愛」や「神の国」といった理念と矛盾しない。

マルクシアンの柄谷氏は、徹底的な宗教批判者である。しかしその宗教批判は逆説的に、あのバルトの宗教批判と似て、キリスト教信仰の核心を純化して呼び覚ます面を持っている。それは、キリスト教が国家制度と資本主義の支配へと単に追従する「世界宗教」ではなく、それらを越えて地球市民の隣人愛を実践する「普遍宗教」たり得るか、という問いかけである。

柄谷氏は、国家と資本が今や死にも狂いで延命を図ろうとしていると言う。震災以降の日本においてそれは明らかである。わずか数百年前に誕生した国民国家と産業資本主義が、永遠に続くシステムであるはずがない。そのシステムは今や限界に達して、貧困、戦争、環境破壊という大破局をもたらしつつある。

私たちはその破局を生き延びなければならない。キリスト教という歴史的一宗教は、私たちの未来への延命を支える「理念と運動」たり得るだろうか。柄谷行人の著作は、そのような問いを投げかけてくる。

（ふくしま・よう＝神学博士、大学教授）

真の「宗教改革」の実現を目指して  
一致に関するルーテル・ローマ・カトリック委員会著  
ルーテル／ローマ・カトリック共同委員会訳

争いから交わりへ

二〇一七年に宗教改革を共同で記念する  
ルーテル教会とカトリック教会



西原廉太

昨年一月三〇日、東京、関口にあるカトリック教会マリヤ大聖堂で、世界のエキュメニズム史においても特筆すべき大礼拝が行われた。第二ヴァティカン公会議、「エキュメニズム教令」発布五〇年を記念して、日本カトリック教会、日本福音ルーテル教会、そして日本聖公会の三教会での合同礼拝が実現したのである。この背景には、世界的な枠組みでも、ローマ・カトリック教会とルーテル世界連盟、ルーテル世界連盟とアンゲリカン・コミュニオン（世界聖公会）、アンゲリカン・コミュニオンとローマ・カトリック教会が、それぞれ国際レヴェルの教会間対話を長年積み重ねており、日本国内でも同様の対話関係があることに加えて、日本というコンテキストの中で、この三教会はより近接した繋がりの中にあった、ということがある。本書の書評の機会が、聖公会に属する私に与えられたのも、このトライアングル教会間対話の結び合いの一つの結果であるとも言えよう。

本書は、四〇年以上の歴史を有する、ローマ・カトリック教会とルーテル世界連盟間の国際対話である「一致に関するルー側においても、歴史的認識の深化があり、信仰・職制・神学・教理といった諸点にわたる合意が地道に形成されていったことの果実に他ならない。

本書は、この宗教改革五〇年を、両教会が共に祝うための基礎的共通資料であると同時に、全世界の諸教会に連なる者たちにとっても、貴重な神学的基盤を提供するものとなっている。本書において中心的に論じられるのは、そもそも宗教改革とは何であったのか、宗教改革期に論じられた問題は、現代に生きる私たちにとっていかなる意味を有するのか、という真摯な問いである。ことに第四章「ルーテル教会とローマ・カトリック教会の対話に照らして見たマルティン・ルターの神学の主要テーマ」は、分量的にも本書の半分以上を占めており、中核的議論が提示されている。本合意文書が中心的に焦点を当てているのは、実は、ルーテル教会神学一般ではなく、マルティン・ルター個人はいつたい何を考え、何を語り、何を目指そうとしていたか、に対してである。例えば、本書第一九九項には、このような記述がある。「ルター自身は稀にしか『聖書のみ』(sola scriptura) という言い方をしなかった。彼の主たる関心は、何ものも聖書以上の権威を主張することができないという点にあった」。

ルターは、教会の一致を乱し、自分たちのセクト的「教派」を作ることを目指したのではなく、あくまでも自らが「普遍教会」(catholic church) に繋がる者として、全公会の包括的な

テル・ローマ・カトリック委員会」が二〇一三年一〇月に発表した文書の邦訳である。ローマ・カトリック教会とルーテル世界連盟は、一九九九年にドイツ・アウグスブルクにおいて、歴史的合意である「義認の教理に関する共同宣言」を公式調印したが、この共同宣言の草案を策定したのも「一致に関するルーテル・ローマ・カトリック委員会」であった。

一五二七年一〇月三一日、マルティン・ルターは、ドイツ、ヴィッテンベルクの城教会において『九五箇条の提題』を掲げたが、この日こそが宗教改革が開始された時とされる。すなわち、来る二〇一七年一〇月三一日には、宗教改革五〇〇年を迎えることになるが、その時を、ルーテル教会のみならず、ローマ・カトリック教会も共に記念する、というのである。当然ながら、これまで、宗教改革記念の節目の機会は何度もあったが、重要なことは、ローマ・カトリック教会とルーテル教会が共同で宗教改革を記念するのは、歴史上初めての出来事となる、という点である。それは、第二ヴァティカン公会議によりカトリック教会の他教会への眼差しが大きく転換したことと、ルーテル改革を求めたのであった。したがって、ルターの願った真の「宗教改革」は、教会が分裂しては永遠に完成されることのないものである。それゆえに、教会の交わりと一致を再び回復していくことは、本当の意味での宗教改革の実現を意味することに他ならない。

私たちも、「すべてのキリスト者のいっそう深い交わりへと進む道をわれわれと一緒に歩んでくれるようにと、すべてのキリスト者に呼び掛ける」という本書の招きに応じて、共に、宗教改革五〇〇年の時を迎えたい。

(にしはら・れんた 立教学院副院長・立教大学文学部長)  
(B6判・二三〇頁・本体二二〇〇円＋税・教文館)

多彩な思想を纏め上げた、著者渾身の評伝  
A・E・マクグラス著  
佐柳文男訳

## C・S・ルイスの生涯 憧れと歓びの人



本多峰子

現在もつとも活躍している英国神学者のひとり、アリスト  
ー・マクグラスによるC・S・ルイスの伝記が出版されたと聞  
いたのは、二〇一三年のことである。それがこの度、佐柳文男  
氏の読みやすい日本語で教文館から出版された。

C・S・ルイスは、日本でもよく知られた『ナルニア国年代  
記』の作者であるが、想像力にあふれた作家であるのみならず、  
オクスフォード大学で長年教鞭をとり、晩年はケンブリッジ大  
学の教授となった中世及びルネッサンス英文学の権威である。  
また、第二次世界大戦中には、BBC放送でキリスト教の護教  
論を、広い層の聴衆に向けて放送講話として発信している。彼  
の著書は今でも世界中で広く読まれ、多くの人をキリスト教に  
改宗させている。

マクグラスは、その多面的なルイスを、今まで書かれたルイ  
スの伝記にはあまり見られなかった彼の私生活についての資料  
まで丁寧に集めて、温かい目で語っている。彼がどれほどルイ  
スの世界に惹かれているかを感じさせる筆致である。  
マクグラスの神学書を読むと常に感じるのは、著者の神学的

な学識と穏健かつ堅実な信仰上の態度、そして、文学的教養と  
感性である。そのすべてが本書にも表れている。

これはまさに、マクグラスにしか書けないルイスの伝記であ  
る。マクグラスは、ルイスと同じく、アイルランドのベルファ  
スト生まれで、オクスフォード大学に学び、オクスフォード大  
学で教鞭をとった。その点で彼は、ルイスが学び生きた世界を  
直接に知っている貴重な人たちの一人である。また、神学者と  
しての彼は、ルイスの護教論や文学に表れたキリスト教思想が、  
必ずしも教義学的に学者が考えるキリスト論や救済論をふま  
えただけではないことを明確に認識している。しかし、彼はそこ  
で止まらず、ルイスの思想を理解するには、英文学の歴史を調  
べなければならない、と指摘し、ルイスの思想の真価を讀者に  
示すことができるほどに、英文学に対する造詣も深いのである。  
マクグラスは、中世の宗教詩や宗教劇、ミルトンの『失楽  
園』などをふまえてルイスの文学や護教的作品を解説してい  
る。特に、『ナルニア国年代記』についての章は、伝記の域を  
超えて、内容や構成にいたるまで、深い洞察に満ちた分析と解

説がなされている。それは、ナルニアを生み出したルイスへの  
多様な影響——過去の英文学、友人関係、ルイス自身のキリス  
ト教護作家としての動機など——をふまえているのみではなく、  
英文学の分野でルイスについて書かれた論文も広く読破した上  
で書かれており、研究者としてのマクグラスの徹底した誠実さ  
と熱意をうかがわせる。しかし、それだけではなく、努力だけ  
では得られない文学的感性と想像力がマクグラスにはあり、そ  
れによって彼は、ルイスの文学の中にさらにさらさらときらめく宝石  
のようなものを感じ取り、それを伝えてくれるのである。

一体マクグラスほどの忙しい人がいつ、ルイスの著書（四十  
冊以上ある！）を、学術的なものから護教的なもの、童話や小  
説までこれほど深く読み、それらについての研究書やルイスに  
ついての伝記的資料を収集し、読み、これだけの伝記に纏め上  
げることができたのか、まさに驚きである。

マクグラスの著書はどれもそうだが、明確で分かりやすい語

英語圏を代表する聖書学者が、詩編の信仰と祈りを語る

## 詩編を祈る

W・ブルツゲマン  
吉村和雄 訳



神との対話を求めて止まない、熱意  
と勇気が証しされている詩編。この  
詩編の信仰に学び、その叫びを自ら  
の祈りとするための、懇切なほどこき。  
四六判・184頁・2160円

## 中澤正七

北陸女学校と北陸伝道にささげた生涯

楠本史郎



地方にあるキリスト教学校が、戦前・  
戦中をいかに歩んだか。国家とキリ  
スト教の隘路をたどりつつ、その本  
質の堅持に努めた教育者の生涯。  
B6判・152頁・1296円

り口で、本文だけで四五〇頁近くある（十年譜の力作であ  
る！）のに一気に読めてしまう。この筆力は訳者の力量もある  
うが、圧巻である。  
人間としてのルイス自身についてだけでなく、ルイスの文  
学について知り、理解したい人にとって、そしてマクグラスの  
人となりに興味のある人にとっても本書は必読書であろう。

（ほんだ・みねこ）松学舎大学教授、日本基督教団正教師

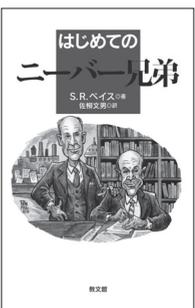
（A5判・五五六頁・本体四九〇〇円＋税・教文館）

「公共の神学者」としてのニーバー兄弟

S・R・ペイス著

佐柳文男訳

## はじめてのニーバー兄弟



高橋義文

本書は、広く一般に神学者の生涯と思想の要点を紹介する「はじめての…」シリーズの一冊として、ラインホルド・ニーバーとその弟のヘルムート・リチャード・ニーバーを扱った書である。

二〇世紀アメリカの神学・倫理学・政治学の領域に広く卓越した影響を与えた二人のニーバーを、実の兄弟であるがゆえに、まとめて紹介するという仕方は、これまでも時折なされてきた（最近では、F・グラーフ編／安酸敏眞監訳『キリスト教の主要神学者下』「教文館、二〇一四年」にその例が見られる）。

しかし、この二人を合わせて扱う手法にはやや疑問も覚える。この二人は、同じ背景に育ち、生涯にわたって互いに尊敬を失わず、公に論争もし、同時に種々の意味で影響を及ぼし合った兄弟であったが、思想家として見た場合、それぞれ、きわめて異なる、独自の存在であり、一緒に扱う範囲をはるかに超えているからである。できれば、それぞれに一書を与えてほしいかったとするのは、評者だけの感想ではないであろう。

とはいえ、二人を一緒に扱うことで、この兄弟の種々の魅力

つていよう。

おそらく、本書の最大の特徴は、ニーバー兄弟を共に「公共の神学者」として受け止め、そこに両者の現代的意義を認めようとしている点であろう。ラインホルドがそのように呼ばれてきたことはつとに知られている。しかし、リチャードをこのカテゴリーで受け止めることはなされてこなかったかと思われる。敢えて二人を「公共の神学者」と見なして論じようとする著者の視点は新鮮である。ただ本書の入門的性格もあって、その内容に深く立ち入ることはできていない。しかし、その認識を踏まえて、両者の影響と遺産を、リチャードは「神中心的倫理学」として、ラインホルドは「キリスト教現実主義」として整理している部分（二二六―二三三頁）は、簡にして要を得ていて、適切である。

本書に課題があるとしたら、この兄弟を扱う場合、両者の歴史理解や歴史意識にもつと光を当て、そこで両者を対話させ、それに関連する種々の議論も盛り込んでいたら、両ニーバーの思想の特徴がさらに浮き彫りになったのではないかと思われる点である。また、それぞれが深遠な思想家であるゆえに、解釈の幅を生むことは当然ではあるが、それにも触れる必要があったのではないか。

著者の説明や解釈に違和感を覚えた点もある。一つだけを挙げれば、ラインホルドの人間学のみならずその思想全体に関わる重要な概念である、人間の「精神」(spirit)が、しばしば

が際立ち、兄弟への関心が喚起されるというメリットもあることは確かである。その点で、本書は、著者S・R・ペイスの手腕もあって、ある程度成功していると言つてよい。

また、二人を一緒に扱うゆえのコンパクトさにもかかわらず、本書は、それぞれの生涯と思想を、相互に手際よく関連させながら、経年的に主要著作を追うかたちで、奇をてらわず、全体としてきわめて妥当に、一定の満足度を満たしながら、紹介している。リチャードの特異な戦争観——十字架刑としての戦争（二〇九頁以下）や、死後一七年経って公にされた、自らの後半生の最後の部分を回顧したラインホルドの最晩年のエッセイ（一九二頁以下）に触れるなど、興味深い部分も多い。

ニーバー兄弟は、二〇世紀半ば、同時代人の多大な尊敬を受けた神学者ではあったが、多くの厳しい批判にもさらされてきた。本書は、それらにも十分な目配りをしつつ応答を試みている（二〇五頁以下）が、その扱ひも妥当である。また、最近の「ニーバー・リヴァイヴアル」と呼ばれる動向（といってもつばら兄のことであるが）にも触れていることは、時宜にかな

「理性」と混同されているように見えるところ（本書一一六一―一二七頁）である。ラインホルドにとって、「精神」は、『自己（理性をも含む）を超越する自己』ないし人間の『根源的自由』のことであつて、理性と同一視することはできない。

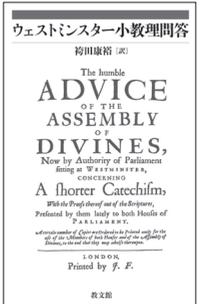
なお、巻末の参考文献の訳者による邦訳情報に、リチャードの最初の主要著書である教派主義論に柴田訳（一九八四年）があることを付け加えておきたい。また、原著者のミスであるが、ラインホルドの没年は、一九七三年（二〇四頁）ではなく一九七一年である。

ニーバー兄弟については、近年少しずつ理解が進みつつあるように思われるが、なお十分とは言えない状況にあつて、本書は、貴重な紹介の書となるであろう。この書を機に、ニーバー兄弟への関心が高まることを期待したいと思う。

（たかはし・よしぶみⅡ聖学院大学大学院客員教授・同総合研究所所長  
（四六判・二七二頁・本体二〇〇円＋税・教文館）

翻訳を重ね、ここまで日本語になった信仰問答！  
袴田康裕訳

## ウエストミンスター小教理問答



山口陽一

「ウエストミンスター小教理問答」(一六四八年)の最初の日本語訳は『耶穌教畧問答全』(一八七六年)だった。これは当時の米国長老教会日本中会による翻訳で、訳者J・C・ヘボンが「自分で申すのは何ですが、立派に翻訳されていると思いません」と満足している。その第一問答は以下のとおり。

人の専ら目的とすべきことは何ぞや  
人の専ら目的とすべきことは神のさかえをあらはし又永遠神を樂むことなり

これは一八七九年の改訂を経て『ウエストミンスター略問答』(一八九五年)となり、戦後の日本基督教改革教会信仰基準翻訳委員会訳『ウエストミンスター小教理問答書』(一九五八年)となる。この間、橋本貞、宮内俊三、藤井重顕ほかの個人訳も用いられた。その後のものとしては榊原康夫訳(一九七八年)や松谷好明のすぐれた翻訳(二〇〇八年)がある。

このたびの袴田康裕訳は一六四八年の初版を底本とし、榊原

訳より英文に忠実と思われる委員会訳を、松谷好明訳の成果をふまえ、現代人に読みやすい日本語にしたものである。  
石丸新が指摘した通り榊原訳は独自の訳語を用いているが、袴田はこれをより一般的な訳語に戻している。たとえば第7問の答「神の聖定とは、神の御意志の熟慮による永遠の決意(purpose)です」は「永遠の計画」に、第33、34問の答の「神の一方的な(Hee)恵みによる決定(dec)」は「無償の恵みの行為」というように。

松谷訳は十戒の本文に文語訳聖書を用いて十七世紀の英語の格調を表したが、袴田訳は新共同訳を用いる。また、松谷が原文に忠実に、目と耳で理解する工夫をしたところを、委員会訳を継承した語順とし、さらに改良を加えている。たとえば第31問「有効召命とは何ですか」の答は以下のとおり。

(松谷訳) 有効召命とは、それによって神の霊が、「第一に」わたしたちに自分の罪と悲慘を悟らせ、「第二に」わたしたちの思いをキリストを知る知識で照らし、「第三に」わたしたちの意思を新たにすることによって、福音において無償で

わたしたちに提供されているイエス・キリストを受け入れるように、わたしたちを説得し、また、実際受け入れることができるようにしてください。

(袴田訳) 有効召命とは、神の御霊のわざであって、それによって御霊は、わたしたちに自分の罪と悲慘を自覚させ、わたしたちの知性をキリストを知る知識で照らし、わたしたちの意志を新たにしてください。こうして御霊は、福音においてわたしたちに無償で提供されているイエス・キリストを、受け入れるように説得し、それができるようにしてください。

第81問、第十戒の禁止事項の答で、私たち自身の「身分」あるいは「状態」と訳されてきた estate を、松谷と共に「生活状態」と訳するのは現代人に理解しやすい。ついでに「過度な意向(motions)や愛着」も、松谷の「法外な欲求や愛着」が良いのではないかと思ったりもした。比較の楽しさの一例である。

人間の主要な目的は何ですか。  
人間の主要な目的は、神の栄光をたたえ、永遠に神を喜ぶことです。

この書評を依頼され、妻と子の協力を得て晩の祈りに委員会訳、松谷訳、原文、そして袴田訳を読み比べた。袴田訳のわかりやすさをしばしば実感し、よりわかり難いと思うことはなかった。これはわたしたちにとって恵みの時であった。  
最初の日本語訳から一三九年、第一問答で「神の栄光をあらわし」、「神に栄光を帰し」と訳されてきた to glorify God は、すべての箇所ですべて「神の栄光をたたえ」とされ、意味をより際立たせている。この新訳が、日本の教会の福音理解をより明瞭にすることを願ってやまない。

(やまぐち・よういち) 東京基督教大学大学院教授  
(新書判・六四頁・本体八〇〇円+税・教文館)



## イエス・キリストの系図の中の女性たち

久野牧  
Nozomu Hisano



神の救いの歴史としての系図に聴く説教。その名をもって登場する女性たちの役割は？ 私たちの役割は？

四六判変型・並製  
定価【本体 1,400 + 税】円  
ISBN978-4-86325-069-7



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-18  
TEL (011) 578-5888  
http://www.ichibaku.co.jp  
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

「礼拝に関する「考え方」や「構え」を論じる書

竹内謙太郎、田代弘子、石田雅嗣、工藤マナ訳  
マーク・イーリー著

## 学び直すリタジー 礼拝、その意味と働き



市原信太郎

本書の原書を手にした際、小生が礼拝について話したり教えたりする時に個人的な工夫として用いてきた図などが、いくつかほとんどそのまま（例えば五五頁、六三頁の図など）記載されているのを見て、「我が意を得たり」という思いがあり、以前より授業その他で英語版のまま用いてきた。そのため、聖公会出版でこの本を翻訳出版する計画があると聞いた時には、竹内謙太郎師の慧眼に改めて敬服した次第であった。本書が翻訳され、日本の読者が気軽に手に取ることができるようになったのは大変に意義深い。

著者のマーク・イーリーは、英国教会の新祈禱書 Common Worship (2000) の発行に際して、礼拝に関する教育を行う団体 Praxis のスタッフとして、新祈禱書の理解や受容を援助する働きを中心になって活躍した。このような経歴から、イーリーには Common Worship に関する著書が多数あり、その中には新祈禱書のフレキシビリティを生かして自分たち自身で礼拝を造りあげるためにはどうしたらよいか、という内容の本なども含まれている。このように、イーリーは畫齋の学者という

よりも、市井で人々と触れ合いながら「礼拝する」ということの素晴らしさに目を開かせるような働きをしてきた礼拝学の専門家であり、本書のような本は彼の真骨頂が十二分に発揮されるものであろう。

礼拝についての本というと、その具体的な「方法」に目が向きがちである。あるいは、ある礼拝の意味についての「解説」のようなものもイメージしやすい。しかし、本書はそのどちらでもない。本書の目的は、「はじめに」に以下のように記されている。「この本は、固有の伝統から生まれた特定の典礼に外見上付随するもの、つまり、そこで話される言葉、動作、時々使われる祈禱書などの先にあるものに目を向け、広く典礼がどのような働きをするのかについて考えようとするものです」小生なりにこれを言い換えると、本書は礼拝に関する「考え方」や「構え」を論じるものである。

従って、様々な事柄が取り上げられてはいるが、個別論に必要以上に踏み込むことには抑制的である。その一方で単なる理論書でもなく、礼拝において人々がどのようにそれに参与し、

どのように影響されるかという「作用点」の部分に焦点を当てていることから、読者は自身の個別の体験をイメージしつつ、それを超えた視点でそれを見ることができると。一例を挙げれば、一〇八ページ以下の「動作と言葉」では、ろうそくを灯すという礼拝中の行為に対して言葉を合わせて用いる様々な可能性が具体的に書かれており、大変に示唆的で参考になる。この例を元にして、読者は言葉と動作とを共に用いることの豊かさに目を開かれるのである。

叙述は至って平易であるが、内容は決して入門的・初心者向きとばかりは言えない。むしろ日本の文脈では、すでに教会の礼拝になじんでいる人々が自らの礼拝体験を見直すための手がかりとして読まれることがふさわしいだろう。また、礼拝をリードする役割を担っている人（典型的には礼拝の司式の任に当たる人）や礼拝の式文を作成する人にもぜひ読んでいただきたいと思う。

訳については、大変に苦勞されたことがうかがえる。逆に言うと、もっと工夫や改善の余地があると感じるところも多

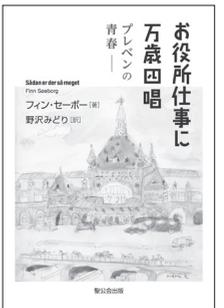
い。例えば、liturgy を「典礼」、worship を「礼拝」と機械的に訳してしまったために、これらが入り交じって使用される第二章などでは非常に分かりにくいところがある。私見では、これらの英語と日本語の単語は機械的な置き換えでは対応しきれない。何らかの工夫が必要だったと思う。また細かい点だが、Creative Liturgy が「独創的な礼拝」と訳されており、固定的な語感の liturgy と動的な creative を対比させている ニュアンスが伝わりにくくなっているのも残念な点である。八七ページで ARCTIC WCC など日本語の訳語が定まっているものに対して原語の音訳のみが付されていることなど、固有名詞の扱い方にも問題が散見される。しかし、これらは本書が日本語で読めるようになったという大きな意義を損なうものではない。

いわゆる「リタージュカル」な教派のみならず、あらゆる教派の方々に、自分たちの礼拝を捉え直すきっかけとしてご一読をお勧めしたい。

(いちばら・しんたろう 立教池袋中学校・高等学校チャプレン)  
(四六判・二〇〇頁・本体二〇〇円＋税・聖公会出版)

デンマークを代表する作家の小説  
フィン・セーボー著  
野沢みどり訳

お役所仕事に万歳四唱  
プレベンの青春



松平信久

フィン・セーボー（一九一六―一九九二）は、デンマークの著名な作家とこのことである。ところが、私たち日本人には、この国の文学作品は、アンデルセンを別とすれば馴染みが薄い。本書は、その未知のデンマークの読み物の世界と、私たちの距離を一気に縮めてくれる。

核家族のもとで、わがまま一杯に育つ一人っ子。その子のことしか眼中にないパパ・ママゴン。肩書き志向のサラリーマン。八方美人で、いくつもの団体や協会の会長におさまってご機嫌の「名士」。迷惑駐車でゴタゴタが絶えない隣同士。おそろしく面倒な手続きをしても、誰も責任をとりたがらず、問題をたらい回しにするお役所仕事。誤認捜査による冤罪……。これはまるで、東洋の某島国のことではないか。遙かかなたの国と、そこに住む人々が、なんと身近な存在に思えることだろう。

訳者による後書きによれば、この作品の刊行は一九五〇年であり、話の舞台は、第二次世界大戦終結後間もない頃である。なるほど、「復興省」「配給」「闇市」など、今やお蔵入りとなった言葉が随所に顔をのぞかせている。しかし、この作品に古

臭さを感じられないのは、登場する人物の経験が、現代の私たちのものと根元のところまで繋がっているからであるに違いない。作者は、多様な多様な人間模様を、モザイクを描くような手法で織りなしてゆく。この小説で描かれるのは、その原題のとおり、まさに「人生いろいろ」である。早いテンポの会話で進む文体は読みやすく、場面ごとに変化する登場人物の姿が、その会話から彷彿とする。ユーモラスな会話や場面も多く、読者は四コマ漫画を立ち読みするような思いにもさせられる。

物語は、大学生活を送るために、地方からコペンハーゲンに出て来た、世間知らずで不器用な青年の戸惑いから始まる。その後のストーリーで展開されるのは、この大学生をはじめとした、まだ頼りない若者たちへの応援歌と言えるだろう。ミニチュアの乗り物を使った遊びに没頭する（なまけ者）。自分の偽の履歴を平気で吹聴する（お調子者）など。しかし本作品では、この人たちに性急な「勤勉」や「成熟」「反省」を求めてはいない。若者たちがそれぞれの人生を自分で作り上げてゆくための

「今」の経験を、作者は、当事者と少し距離を置きながら見守っている。その背後には、彼らが経て来た、辛く厳しかったと思われる生い立ちへの眼差しも汲み取れる。

作者はまた、市井の人々の、草の根的な逞しさや楽天性にエールを送っている。にもかかわらず、いわゆる庶民が手放しで礼賛されているわけではない。群衆と化して、無実の児童虐待犯を作り上げるのも庶民だし、批判されている官僚性も少なくともその一端は庶民が担っている。出来心からとは言え、かつての雇用主を被疑者に追い込んでしまうような人物も身近に存在する。これらのことは、「庶民」を自認する私たちへの鋭い警鐘であろう。一方、誠実な努力が実らず、あがけばあがくほど破綻へと追い込まれてしまう起業家も登場する。社会貢献への気持ちは強く、「地を受け継ぐべき柔らかな人」がこのような悲運に遭うことが多いのは、残念ながら、世の常である。この人への悲劇が待ち受けている結末で、どんでん返しが起こるの

がこの物語の（おち）になり、救いともなっている。

訳者の野澤さんは篤字の人である。デンマーク語の勉強を始めたのは、お勤めを退いた後、還暦を過ぎてからのことだと伺っている。短期の旅行を除いては、現地への留学経験をお持ちでもない。この小説には、軽妙洒落な会話がとびかっっており、そのニュアンスを的確にくみ取り訳出することは容易ではなかったことと思う。今風の言葉使いも巧みに取り入れて、各年代の読者に読みやすい翻訳となった。後学を目指す方々のよき目標であろう。野澤さんによる長編の翻訳はこれが二冊目であるが、今後さらに、私たちに馴染みのうすいこの国の作品が紹介されることを願って期待している。

（まつだいら・のぶひさ）元立教大学院院長  
（四六判・三五四頁・本体一八〇〇円＋税・聖公会出版）

キリスト新聞社の本

Kirisuto Shinbun, Co., Ltd.

大切なあなたに贈る  
珠玉の詩集！



写真付き  
保存版！

▼八木重吉の原点である諸作品と風景写真を満載した詩集  
八木重吉詩集  
祈りのみち  
八木重吉◎作  
森重ツル子◎編

結核のため二十九歳でこの世を去った詩人八木重吉が書き残した二千余りの詩。重吉と彼の詩を愛した妻とみ子は、これらの作品を世に出すべく、大切に保管していた。二人の子ども桃子と陽二を重吉と同じ病で相次いで失うことになるが、とみ子は歌人吉野秀雄と再婚し、彼の子ともたちとともに重吉の詩を世に送り出した。

■A5判 84頁 1200円

キリスト新聞社

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1  
TEL. 03-5579-2432  
FAX. 03-5579-2433 (価格に税別)  
E-Mail. support@kirishin.com  
URL. http://www.kirishin.com

宣教のことは、会衆の魂を養う牧会の業  
宮村武夫著

## ヨハネに見る手紙牧会

その深さ、広さ、豊かさ  
宮村武夫著作 8



小林高德

宮村武夫先生の説教集を読むと、神のみことばを生きようとする熱いところに触れて、魂の震撼を覚える。それは、終末における完成を視野に入れつつ、みことばを「今ここで」教会の礼拝において聴き、それに従おうとする説教者の教会への愛が紙面からにじみ出るからに他ならない。

神学校で先生から受けた聖書解釈学の授業は、評者には救済論的意義があった。歴史的・文法的聖書釈義の方法論を学んでゆく中で、「かつて、あそこ」書かれた聖書の今日的メッセージを読み取ることが困難になっていた。そんな時、ゲオハルダス・ヴォスの著作を教えられた。旧約と新約をつなぐだけでなく、歴史上過去のテキストと読者の現在をつなぐ聖書神学的救済史の視点は、「今ここで」聖書のみことばを読むことを可能にしてくれた。宮村先生の説教は、三〇年前に伺った同じ原則に貫かれている。

本著は、沖縄の首里福音教会でなされたヨハネ書簡からの主日礼拝説教集である。二〇〇〇年アドベントから二〇〇一年一月末まで、礼拝において語られた神のみことばが、キリスト者・教会において受肉してゆく。「今、私たちはヨハネを、

主日礼拝ごとに読み進めています。その目標の一つは、兄弟愛を私たちの心や生活に、そして生涯に刻み付けて頂く、この一事のためです。」(六三頁)この明確な目標の下に、ヨハネの手紙第一の綿密な講解説教が続けられている。キリストの受肉と十字架の死と復活による福音を蔑ろにする誤った教えと闘い、互いに愛し合うことでキリストの愛の現実を、父なる神とキリストとの交わりの豊かさを示そうとしたヨハネの意図が紐解かれてゆく。

宮村先生の説教は、堅固な釈義を土台とし、ブレがない。それを、理路整然と、しかも簡潔に会衆に届くようにとの配慮がにじみ出る。一週間の戦いを終えて集った信仰の群れを、みことばによって慰め癒し、これから一週間の戦いに出てゆく一人ひとりをみことばによって整え、励ます教会者の姿がそこにある。「私たちはひとりひとり、それぞれの一週間の経験を身に帯びて、この主日礼拝の場に導かれ……(中略)……またこの礼拝の場から、主なる神が派遣してくださる持ち場・立場へと進み行き、派遣された場で礼拝の生活を継続」(二五六―七頁)する。宣教のことは、会衆の魂を養う牧会の業なのである。

紡ぎだされた説教には「宮村節」とも呼ぶべき珠玉の表現があふれている。「聖霊の助けに導かれ、祈りを通して、神の言葉・聖書が心、生活、生涯に決定的に刻まれ、実を結ぶ。若者だけでなく、この私も。」(七一頁)「祈りは仕事、大きな仕事であること」(一六五頁)。「聖書に基づき、主なる神の言い分、ご意志に従うのです、神の恵みから自分を見るのです」(一三九頁)、等々。それにしても、「恵み」への言及がなんと多いことか!「福音を述べ伝える恵み」に「各自を根底から支える恵み」。「一方的な神の恵みにより選ばれ、導かれている」との述懐。まさに、「恵み」のオンパレード。講解最後も、「父、御子、御霊なる神の愛の交わりに与る驚くべき恵みの提示、これが福音、喜びのおとずれです」(二六〇頁)と、第1ヨハネ全体を「恵み」に集約する。神の恵みに依り頼むキリスト者をそこに見る。

本説教集の根底にあるのは、神のみことばと聖霊による教会

形成と改革という宗教改革に由来する原則。その信念に立ち、「聖書と矛盾する聖霊の教えなどない」(二四〇頁)と喝破する。ヨハネ書簡を、ヨハネ福音書が引き合いに出されるだけでなく、他の関連する聖書箇所を多く用いて解釈が進む。聖書を(他の)聖書(箇所)によって解釈することが実践される。ヨハネの手紙第二・第三の講解説教に加えて、巻末には、遠藤勝信氏との間に交わされた、神のみことばからの説教についての真摯なやり取りが載せられている。本書は、個人での学びと黙想のために、聖書の学び会のテキストとしても有益だ。特に、説教による牧会を試みる説教者にお勧めしたい。「恵みのみ」「聖書のみ」「信仰のみ」の原則に貫かれた、人となられた神のみことばなるキリストとの生きた交わりが、そこにはある。

(こ)ばやし・たかのり(日本長老教会神学教師、現東京基督教大学学長)  
(四六判・三三四頁・一八〇〇円+税・ヨベル)

日本基督教団  
宣教師教育委員会  
「聴聞学」の登場!

# 門叶国泰著 説教聴聞録

ローマの信徒への手紙

これぞ「聴聞学」! 聴聞学という伝統の道

主日説教との「二期一会」の出会い、自らの原典釈義を通して説教者の釈義を追究する聴聞録! 牧師に「説教」があるように、まさに信徒による「聴聞学」の誕生である。1997年から毎週追想してきた説教の中から「ロマ書」に集中してまとめられたもの。

●ヨベル新書Open三〇四頁・一、〇〇〇円+税

好評既刊の本

山口勝政著 ヨベル新書 027

## キリスト教とはなにか?

ヨハネ書簡に徹して聴く

榊田節夫師・評 講解説教の具体的な見本と励ましを望む牧師・神学生の方々は御力と御霊の導きを求めてさらに真剣に説教の取り組みへの挑戦を受けることでしょう。

●新書判・248頁・1,000円+税

渡辺善太著作選⑩ ヨベル新書 024

## 聖書的説教とは?

加藤常昭師・解説

桂町キリスト教会 矢木良雄師・評 聖書を正典的に説教するとはどういうことか、それがこの本の主題。もう一点は説教の聖書解釈は正典的神学的方法によって行うこと。熟読すべき名著!

●新書判・320頁・1,800円+税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
\*自費出版の専門出版社\*資料・星

読者を「とてつもない世界」に引き込む説教集  
及川 信著

主の祈り  
説教と黙想



藤掛順一

『主の祈り』に取り組み始める時から、私はやはり一種の恐怖を感じていました。『とてつもない世界』に足を踏み入れることになる。この祈りの言葉に向き合っていくと、それまでの自分でいることは出来なくなる』と。この祈りを真実に祈ることは、簡単なことではありません。と言うより、人間が持っている力で祈ることはできないと言わなければならない(一二八頁)。

この文章が本書の基本的な特色、性格を語っている。「主の祈り」についての理解を深めるための手頃な「解説」を期待して、あるいは自分が主の祈りについての話(説教)をするための「参考」にしようとして本書を手取る人がいたら、おそらく「期待はずれ」だろう。本書は、及川信牧師が、主イエスがお教えになった「主の祈り」という「とてつもない世界」に足を踏み入れ、その言葉と真剣に向き合い、この祈りを真実に祈るという人間の力では不可能と思われる課題に、恐怖を覚えずとも果敢に取り組んだことよって、「それまでの自分であることは出来なくなる」ことを身を以て体験しつつ語った「説教と黙想」である。読む者はそれを「解説」として聞き「参考」

にするような第三者ではあり得ない。「とてつもない世界」に自分も引き込まれ、主イエスの命がけの語りかけに向き合わせられ、それまでの自分であることが出来なくなる恐怖を共に体験し、この祈りを真実に祈るといふ人間の力では不可能な、しかし神が与えて下さる喜びに満ちた体験へと導かれるのである。

本書には、及川信牧師が中渋谷教会において二〇一三年四月から十月にかけて語った「主の祈り」に関する十三篇の説教と、関連するルカ一・五〜一三についての説教、合計十四篇の説教が収められている。それに先立つ冒頭には、『父よ』に関する黙想』があり、これがまた圧巻である。父親の育児放棄によって五歳で餓死し、七年後に遺体が発見された理玖君という幼児がいた。「彼の存在を受け止めて抱きしめてくれる『パパ』はこの世にはいなかった。しかし、『いなかった』と思うことで、私は生きていけるのか。『この幼児が、自分でなくてよかった』と思うことで、何食わぬ顔をして生きていけるのか。この世の『パパ』を超えた『父』が、理玖君にはいないのか。いないとすれば、彼の存在は何なのか。また、『パパ』であることを放棄した父にも、縋るべき『パパ』はいなかったのではな

いか(二〇頁)。及川牧師はこの問いから逃げることなく、聖書に聞くことよって正面からそれに答えようとしているのである。この問いへの答えがあるとしたらそれは十字架の主イエスのみである。「天におられる父は、すべてを知っているはずだが、十字架の上で叫ぶその時、イエスにも父の御顔は見え、その御声も聞こえなかったのではないか。そういう孤独の闇の中で『父よ』と祈り、『わが神、わが神』と叫ぶ。顔は見えず声は聞こえずとも、『父』はおり、『わが神』がここにいる。彼の願いは、自分が生き永らえることではなく、すべての孤児に父がいることを知らせることなのだ(一四頁)。

「罪人(孤児)の罪が赦されるように祈り求めるイエスに、神はすべての人間の罪を背負わせて裁き、陰府にまで下らせたもった。その裁きを一身に受けたイエスを、神は三日目に復活させ、天に挙げ、ご自身の右の座に着かせた。そのことを通して、ご自身が、闇の中に死んだ子どもたちを見捨てず、子ども

たちを捨てた親をも見捨てない『父』であることをお示しになったのではないか。そして、この父は、世の終わりの時に、すべての生者と死者を御前に立たせるのである(二六頁)。神に「父よ」と呼びかける私たちは、この終末論的信仰へと導かれる。「すべての孤児に父がいる」ことは、神の裁きにおいてこそ明らかになるのである。この世においては信仰を与えられなかった者も、神の裁きにおいて信仰を告白する機会を与えられ、「父よ」と呼ぶことができる、という主張には異論もあるだろうが、「主の祈り」を真実に祈ろうとする信仰の戦いの中で及川牧師が示された言葉として受け止めることができる。

本人による「あとがき」にあるように、及川信牧師は現在、脳梗塞の後遺症との戦いの中にある。彼の一日も早い回復と講壇への復帰を心から祈り願っている。

(ふじかけ・じゅんいち) 日本基督教団横浜港路教会牧師  
(四六判・二三六頁・一八〇〇円+税・一麦出版社)



主の祈り

説教と黙想

及川 信  
Shin Okawa



福音に生きるとは  
どういうことなのか?  
主イエスの  
教えの中核である  
「主の祈り」とおして、  
全知全能の神を  
「我らの父」と呼べる  
幸いを語る。

四六判

定価 [本体 1,800 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-074-1



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

初めての日本語による詳しい入門書！  
土岐健治著

## 七十人訳聖書入門



村岡崇光

初代教会並びにその前後の時代を巡る文献学的研究家としての著者は今更紹介を必要としない。著者の、倦むことを知らない研究、著作活動には驚嘆なきを得ない。量的にのみならず、質の面でもすぐれた著者の作品の一つがここにある。

七十人訳についての概論的なことは邦語でも聖書事典や旧約概論などに取り上げられているが、突っ込んだ邦語による入門書は本書をもって嚆矢とする。英語その他では、相当に詳しい七十人訳入門書はあるが、この文書がいろいろな意味においてもつ重要さに鑑みて、本書の出版はおおいに歓迎されるべきであろう。本書は、欧米語による入門書に書かれてあることをただなぞったものではなく、著者自身の独創的な視点をも加えてある。ヘレニズム、ローマ時代の関連分野のみならず、それをさかのぼる古典ギリシヤ、ラテンの文献をも参照しながら七十人訳が提示する諸問題が論じられている。そもそもどのような歴史的、文化的背景のもとに旧約聖書のギリシヤ語訳が成立するに至ったのか、ギリシヤ語で思索あるいは著作したアレクサンドリアのフィロンやヨセフスなどは七十人訳とどのように関

と旧約におけるモーセへの神の言葉の授与と七十人訳の翻訳過程との類似点を興味深く指摘している。

評者の気づいた点の一部を述べさせてもらいたい。七十人訳成立の根拠をユダヤ人のヘブライ語能力の低下にのみ求めるのは一面的（一―三頁）であることは、ヨブ記のアラム語訳が死海文書の中に含まれていることから知られる。同書のヘブライ語は確かに難読であるが、ヨブ記が当時のユダヤ教の中で頻りに読まれていたとか、礼拝の中で朗読されていたとはまず考えられない。翻訳することによって自分の解釈を鮮明にする、文書化して他者にも提供する、というのが動機だったのではなからうか。

「七十人訳聖書の諸特徴」と題された第8章では、翻訳された文書の場合は原文との関係、用いられているギリシヤ語の語彙、文法、文体などについても少し言及してほしかった。

フランスのアルル (Arles) が始めた、現在尚続行中の七十

わたったのか、最初はモーセ五書だけの翻訳であったものが、時を経て他の旧約文書も翻訳され、所謂外典、偽典と呼ばれる文書のあるものも翻訳され、さらに本来ギリシヤ語で著作された文書も加わって七十人訳というまとまった文書群に成長して行った過程が論じられている。さらに、当初はヘレニズム期の、主としてギリシヤ語圏のユダヤ人社会での必要に促されて成立したと思われる七十人訳が、初代教会がエルサレムからアンテオケにその中心を移し、パウロその他の使徒達の宣教活動がパレスチナの外へ拡大して行き、旧約を原語のセム語で読めない信徒が増大するにつれて、七十人訳は彼らの旧約聖書となつて行った。土岐氏は、新約聖書の著者達が旧約をただ七十人訳から引用しているだけでなく、彼らの思考様式、表現様式がヘブライ語、アラム語原典の旧約でなく、そのギリシヤ語訳によって培われたのではないかを論じる。そのような観点からして、創世記二二章のイサクの犠牲の記述からキリストの磔刑に至る思想の展開の叙述（第7章）は興味深い。

第3章では、そこから一歩進んで、「アリストテラスの手紙」

人訳の仏語訳とその注解シリーズは、七十人訳研究の根本的に新しい方法論を具現化している。翻訳されている部分でも、七十人訳をギリシヤ語テキストとして読もうという試みであり、そこからギリシヤ語の孫訳や、七十人訳に基づいた教父達の注解や論文に対する関心が理解される。そういう関心がなかったら、評者は七十人訳の辞書（二〇〇九年）作りには四半世紀を費やすことはなかったであろう。年内に出版を予定されている七十人訳ギリシヤ語文法もそのような視点からの分析で、これに對して、旧約聖書の本文批評のために七十人訳を参照する場合や、文法、特に統辞論の研究においてセム語原典を出発点とする、という方法も広く行われている。

（むらおか・たかみつ 〓ライデン大学名誉教授）  
（四六判・二六〇頁・本体一八〇〇円＋税・教文館）



## 小川修パウロ書簡講義録9

### 前期論文集

小川修パウロ書簡講義録刊行会編

●A5判上製三五〇頁 ●定価三二四〇円

本シリーズは、小川修先生が二〇〇七年四月から二〇一〇年月に亘り、同志社大学神学部大学院で行った「パウロ書簡」の講義録である。本巻はその基となる著者の論攷（一九六八年から一九八八年までの二二年間）の二六編を「前期論文集」として収録した。

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

# 本屋さんを選んだ

## お勧めの本

広島聖文舎 難波郁江

### 『パパやママが がんになったら』

藤井あけみ著



1,500円+税  
新教出版社

ここ数年、私の親しかった方や同年齢の方が癌によって召された。誰でも同じだと思えますが私は当分の間、気持ちが悪く塞ぎ込んでしまう。

このような経験は今に始まったことではなく私は、子どもの頃から突然、自分の親が病気になるって死んでしまったら、どうしよう？という不安をいつも抱えていた。特に母親が病気になる子どもは大変不安になるものである。

著者である藤井あけみさんのようなチャイルド・ライフ・スペシャリストの存在を知っていれば、子どもながらも、きっと落ち着いた生活ができたのではないかと思つた。現代は癌になった親を持つ子どもが増えているそう。より良い治療で治る人もいるかも知れないが、常に「死」と向き合わねばならない。「死」の恐怖を抱きながら過ごすことほど不安定になることはない。

この本は「パパやママががんになったら」「生きるってどんなこと？」「いのちの教育」と三つのパートから構成されている。大人も子どもも一緒に「いのちを見つめる」

ことの大切さを訴えている。日頃、ヒロシマに生きて「非戦」「非核」「非暴力」を訴える活動をしている者として「いのちの大切さ」を伝えるのに参考になった。いじめによる自死や殺人は絶対にあつてはならないことは誰でもわかつている。しかし、この本の最後の章での著者の学生に向けた講義を読むと「いじめられる方にも問題がある」という学生の回答があるということには驚き、残念に思つた。いじめることはどんな理由であれ、悪いことであると認識したい。

チャイルド・ライフ・スペシャリストの働きがこの本によって広がり、子どもに寄り添い、一緒に考えていくことに役立つのではないかと思う。

### 広島聖文舎

〒730-0841 広島市中区舟入町12-7  
TEL: 082-2008-0022  
FAX: 082-2008-0177  
E-Mail: hseibun0951@yahoo.co.jp

大阪キリスト教書店 上田玲子

### 『教会では聞けない 「21世紀」 信仰問答Ⅱ』

上林順一郎監修  
みづみマンガ



1800円+税  
キリスト新聞社

「この本は、『あなた』のために」

「牧師にだって悩みの一つや二つあるんです!」。帯に書かれたこのことばがとても印象的な本書は、「キリスト新聞」に連載された人気コーナー「教会質問箱」の単行本化第2弾です。先に出版された第1弾「まずは基礎編」は、2014年のキリスト教本屋大賞にノミネートされました。教会に生きるなかで湧く素朴な疑問や悩みの一つひとつに、弁護士やカウンセラーなど豪華強力執筆陣が寄り添いつつ、明快・爽快にアドバイス! 悩みを分かち合える仲間(本)がここにもいます。

「教会は、迷える人の来るところ」(まえがきより)

そして、文書伝道の使命を託されたキリスト教書店も、また然りかも知れません。「あの……:僕(私)は一般の信徒で、牧師とか神学生とかじゃ全然ないんですけど、読んで大丈夫でしょうか?」書名に「牧師」や「教会」などと書かれているだけで、つい一歩下がりがたくなるお客様も多いようですが、大丈夫ですよ! だってこの本は、そんな「あなた」のために書かれたのですから。

### 『エンキリデイ オン 小教理問答』

マルティン・ルター著

ルター研究所訳



900円+税  
リトン

「お父ちゃん、これなあに?」何にでも興味・関心を持ちはじめた幼年期の子どもに、自分の信仰の中心をどうやって伝えようか? その思いはルターも同じでした。日本福音ルーテル教会では、宗教改革五〇〇年記念事業推奨図書として、『マルティン・ルター——ことばに生きた改革者』(徳善義和著・岩波新書)を、そしてこの度、小教理問答の改訳版を出版しました。

ルターを知り尽くした男、徳善義和先生と、ルター研究所による「小教理問答」のあつたかくて新しい翻訳に加え、「朝の祈り、夜の祈り、食事の感謝」「いくつかの聖句による家訓」など、元々ルターが書いたままの形で出版されるのは今回が初めてなのだそう、ルターの新たな一面を窺い知ることのできるのではないのでしょうか。

エンキリデイオンとは、「必携」のこと。ルターが出版したときも、実はつけられていた書名です。一人でも多くの方が手に取り、必携し、愛される一冊となりますように。

### 大阪キリスト教書店

〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-1-15  
TEL: 06-6345-2928  
FAX: 06-6345-2187  
E-Mail: ochbook@river.ocn.ne.jp  
URL: http://osakachs.web.fc2.ocn.ne.jp

既刊案内 (2015年6月～7月) (定価はすべて本体価格+税)

| 著 訳・編 者                      | 書 名   | 判型  | 頁   | 本体価格  | 版 元                      | 発行日  |
|------------------------------|---|-----|-----|-------|--------------------------|------|
| 袴 田 康 裕 訳                    | ウ エ ス ト ミ ン ス<br>タ ー 小 教 理 問 答                    | 新書  | 64  | 800   | 教 文 館                    | 6/10 |
| S.R.ベ イ ス 著<br>佐 柳 文 男 訳     | はじめてのニーバー兄弟                                       | 四六  | 272 | 2,100 | 〃                        | 6/30 |
| 土 岐 健 治                      | 七 十 人 訳 聖 書 入 門                                   | 四六  | 260 | 1,800 | 〃                        | 6/30 |
| ナニー・ホグロギアン作<br>藤 本 朝 巳 訳     | ノ ア の は こ ぶ ね                                     | A4変 | 32  | 1,400 | 日 本 キ リ ス ト<br>教 団 出 版 局 | 6/15 |
| 平 野 克 己 編                    | 祈 り の と も し び<br>—2000年の信仰者の祈りに学ぶ                 | 四六  | 112 | 1,200 | 〃                        | 6/20 |
| 土 井 健 治 編                    | 自 死 と 遺 族 と キ リ ス ト 教<br>—[断罪]から[慰め]へ、[禁止]から[予防]へ | 四六  | 270 | 2,600 | 新 教 出 版 社                | 6/25 |
| 上 林 順 一 郎 監 修<br>み ぶ み マ ン ガ | 教会では聞けない「21世紀」<br>信仰問答II 悩める牧師編                   | 四六  | 140 | 1,800 | キ リ ス ト 新 聞 社            | 6/22 |
| 梶 山 義 次、<br>富 永 國 比 古 著      | 『銀河鉄道の夜』と聖書                                       | 四六  | 310 | 2,300 | 〃                        | 6/30 |
| 田 島 靖 則                      | アンデルセンに聞く聖書の言葉                                    | B 6 | 88  | 700   | リ ト ン                    | 6/25 |
| 上 田 光 正                      | 日本の伝道を考える3<br>伝道する教会の形成                           | A 5 | 294 | 1,900 | 教 文 館                    | 7/10 |
| M. ハルバートル著<br>志 田 雅 宏 訳      | 書 物 の 民<br>—ユダヤ教における正典・意味・権威                      | 四六  | 342 | 3,500 | 〃                        | 7/20 |
| 飯 靖 子 /<br>志 村 拓 生 演 奏       | CD版 讃美歌21による礼拝用オルガン曲集<br>—第6巻 キリスト者の生活            | C D | 39曲 | 1,800 | 日 本 キ リ ス ト<br>教 団 出 版 局 | 7/16 |
| 山根道公編・解題<br>山本芳久解説           | 井上洋治著作選集 1<br>日本とイエスの顔                            | A 5 | 248 | 2,500 | 〃                        | 7/20 |
| 渡 辺 正 男                      | 祈 り<br>—こころを高くあげよう                                | 四六  | 112 | 1,100 | 〃                        | 7/20 |
| 広 岡 浅 子                      | 人を恐れず天を仰いで<br>—復刊『一週一信』                           | B 6 | 184 | 1,700 | 新 教 出 版 社                | 7/30 |
| 小川修パウロ書簡<br>講義録刊行会編          | 前 期 論 文 集<br>—小川修パウロ書簡講義録9                        | B 5 | 350 | 3,000 | リ ト ン                    | 7/25 |
| 吉 岡 利 夫 著<br>上 田 勇 監 修       | 堀 の 中 の キ リ ス ト<br>—エン・クリストの者への道                  | 新書  | 296 | 1,000 | ヨ ベ ル                    | 7/31 |

| 書店名             | 郵便番号     | 住所                     | 電話           | ファックス        | URL   | メール                          | 郵便振替           |
|-----------------|----------|------------------------|--------------|--------------|---|------------------------------|----------------|
| 北海道キリスト教書店      | 060-0807 | 札幌市北区北七条西6丁目           | 011-737-1721 | 011-747-5979 | <a href="http://www.jp-shop.com">http://www.jp-shop.com</a>   | sasaki@jp-shop.com           | 02770-2-56520  |
| 善隣館書店           | 020-0025 | 盛岡市大沢川原3-2-37          | 019-654-1216 | 共用           | <a href="http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/">http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/</a>                                 | zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp | 02350-0-874    |
| 仙台キリスト教書店       | 980-0012 | 仙台市青葉区1-36 敷島センター1771F | 022-223-2736 | 共用           |   | fqcwk524@ybb.ne.jp           | 02230-0-31152  |
| 恵泉書房            | 260-0021 | 千葉市中央区臨3-2 榎ヶ丘センタービル   | 043-238-1224 | 043-247-3072 |   | keisen@vesta.ocn.ne.jp       | 00120-9-43619  |
| 教文館             | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1          | 03-3561-8448 | 03-3563-1288 | <a href="http://www.kyobunkwan.co.jp">http://www.kyobunkwan.co.jp</a>   | xbooks@kyobunkwan.co.jp      | 00120-2-11357  |
| 聖公書店            | 350-1331 | 埼玉県狭山市新狭山1-5-1         | 042-900-2771 | 042-900-2722 |   | seikoshoten@bible.or.jp      |                |
| アバコ・ブックセンター     | 169-0051 | 東京都新宿区西早稲田2-3-18       | 03-3203-4121 | 03-3203-4186 | <a href="http://www.avaco.info">http://www.avaco.info</a>   | avaco@avaco.info             | 00130-0-96398  |
| 待農堂             | 167-0053 | 東京都杉並区西荻南3-16-1        | 03-3333-5778 | 03-3333-6378 | <a href="http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/">http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/</a>               | taishindo@icom.home.ne.jp    | 00110-8-95827  |
| キリスト教書店ハンナ      | 162-0814 | 東京都新宿区新小川町9-1          | 03-3269-4490 | 03-3269-4491 |   | kristokyoushoten@ybb.ne.jp   | 00150-9-595509 |
| バイブルハウス南青山      | 107-0062 | 東京都港区南青山5-10-2         | 03-6418-5230 | 03-6418-5231 | <a href="http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs/bs/ine/v.html">http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs/bs/ine/v.html</a> | biblehouse@bible.or.jp       | 00250-4-2512   |
| 横浜キリスト教書店       | 231-0063 | 横浜市中区花咲町3-96           | 045-241-3820 | 045-241-5881 |   | sksch@mva.biglobe.ne.jp      | 00540-6-82826  |
| 清光書店            | 951-8114 | 新潟市営所通 一番町313          | 025-229-0656 | 共用           |   |                              |                |
| 静岡聖文舎           | 420-0866 | 静岡市葵区西草深町20-26         | 054-260-6644 | 054-260-5612 |   | info@s-seibun.co.jp          | 00810-8-26558  |
| 名古屋聖文舎          | 464-0850 | 名古屋市千種区今池5-28-4        | 052-741-2416 | 052-733-2648 | <a href="http://homepages3.nifty.com/seibunsta/">http://homepages3.nifty.com/seibunsta/</a>                     | nagoya-seibunsta@nifty.com   | 00810-5-14073  |
| 京都ヨルダン社         | 602-0854 | 京都市上京区荒神口通河原町東入ル       | 075-211-6675 | 075-211-2834 |   | kjorden@mbx.kyoto-net.or.jp  | 01010-2-594    |
| 大阪キリスト教書店       | 530-0002 | 大阪市北区曽根崎新地2-1-15       | 06-6345-2928 | 06-6345-2187 | <a href="http://osakacbs.web.fc2.com/">http://osakacbs.web.fc2.com/</a>   | ochrbook@river.ocn.ne.jp     | 00990-3-43009  |
| 堺キリスト教書店        | 591-8044 | 堺市北区中長尾町2-1-18         | 072-257-0909 | 072-253-6132 |   | sakai-x@topaz.plala.or.jp    | 00960-9-47426  |
| 神戸キリスト教書店       | 650-0021 | 神戸中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F   | 078-331-7569 | 078-331-9833 |   |                              | 01150-7-45120  |
| 広島聖文舎           | 730-0841 | 広島市中区舟入町12-7           | 082-208-0022 | 082-208-0177 |   | hseibun0951@yahoo.co.jp      | 01360-4-1958   |
| 徳島キリスト教書店       | 770-0052 | 徳島市中島田町3-57-1          | 088-633-6335 | 共用           | <a href="http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/">http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/</a>   | tokushoten@shirt.ocn.ne.jp   | 01630-5-37119  |
| 松山キリスト教書店       | 790-0804 | 松山市中一万町1-23            | 089-921-5519 | 089-921-5413 |   | sksch@dokidoki.ne.jp         | 01650-1-2120   |
| 北九州キリスト教ブックセンター | 802-0022 | 北九州小倉北区上雷野5-2-18       | 093-967-0321 | 共用           | <a href="http://kcbook.net/">http://kcbook.net/</a>   | kcbookcenter@ybb.ne.jp       | 01780-4-39965  |
| 新生館             | 810-0073 | 福岡市中央区舞鶴2-7-7          | 092-712-6123 | 092-781-5484 |   |                              | 01750-5-10932  |
| キリスト教書店ハレルヤ     | 862-0971 | 熊本市大江4-20-23           | 096-372-3503 | 共用           |   |                              | 017304-45044   |
| 沖繩キリスト教書店       | 901-2131 | 浦添市牧港1-60-6            | 098-877-7283 | 共用           | <a href="http://www.okinawacbs.com/">http://www.okinawacbs.com/</a>   | okinawacbs@yahoo.co.jp       | 020308-1283    |

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社

# 福音と世界

2015年10月号

特集 教戦後70年の教会と神学4

——ボンヘッファー没後70年

寄稿者 山崎和明、橋本祐樹、八谷俊久、岡野彩子、秋永好晴、マーティン・マーティ

安倍首相「談話」を韓国で読む 崔亨默、金鎮虎  
好評連載 レヴィナスの時間論 (内田樹)、南島キリスト教史入門 (色哲)、Christian Leon (八木美穂子)、ことばの履歴書 (佐藤優)、詩篇の思想と信仰 (月本昭男)、他

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

編集室から

少し旧聞に属するが、八月七日から八日にかけて北海道の旭川文学資料館を会場に第一五回東北アジア・キリスト者文学会議が開かれた。今回のテーマである「文学は聖書をどのように表現したか」に即して、日本と韓国の小説・詩について、講演や話し合いがもたれた。ちなみにこの集まりは本誌を発行している一般財団法人キリスト教文書センターの活動の一環として行われている。

よく知られているようにお隣の韓国はキリスト教が盛んで、人口の約四分の一がキリスト者だと言われている。それに対して日本ではキリスト教の信者数は人口の一パーセントにも満たない少数派である。プロテスタントについて言えば、日韓両国での宣教の開始時期にはそれほど大きな差はなかったため、韓国でのキリスト教の発展を基準にすれば「なぜ日本にキリスト教は広まらないのか？」という疑問が湧いてくるのも無理のないことである。

## イエスの譬え話1

ガリラヤ民衆が聞いたメッセージを探る

山口里子著



誰もが疑問も反抗も許されずに生きていた支配体制の中で、イエスは皮肉とユーモアを込めた話術で現実に気づかせる。そして……。

A5判・198頁・本体2000円

いことである。

最近、關岡一成氏の著書『海老名弾正——その生涯と思想』を読み、海老名が牧会していた本郷教会が一九〇五〜〇六年を頂点に急激に衰退した大きな理由の一つが、学生・青年の多くがキリスト教から唯物論社会主義に関心を移行したのではないかと、というような記述に出くわした。そうだとすると、キリスト教が受容されたのは単なる流行思想の一つとしてであって、それに代わる新しい、より魅力的に感じられる思潮が出現すれば、キリスト教は流行遅れとして衰退せざるをえないことになる。実際、かつてキリスト教が盛んであった北米と欧州諸国では今キリスト教離れが進んでいるらしい。

このような時代のうねりの中で日本社会におけるキリスト教の今後の存在意義は何なのか？ そもそもそのようなものがあるのか？ そんなことをふと考えるのである。(Varwel)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1

TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

日本人の心に届くイエスの福音のあり方を探求した著者の遍歴

# 井上洋治著作選集 2 全5巻

## 余白の旅 思索のあと

山根道公 編・解題 小野寺 功 解説

生きとし生けるものを生かす「余白」から吹きぬけてくる風を、聖霊と捉えるまでの思索を明かす。新たに解題・解説と、遠藤周作氏のエッセイ、著者の遠藤氏宛てのエッセイ3通を取録。◆A5判 上製・240頁・2,700円



第4回 配本

私たちがお勧めします

一貫して、  
キリストその人の  
愛を説いた人

渡辺和子

ノートルダム  
清心学園理事長



キリスト教信仰の  
日本への土着化を  
実践した先生

佐藤 優

作家・元外務省  
主任分析官



現代社会に  
〈たましいのやすらぎ〉  
を与える書

木崎さと子

作家



シリーズ刊行案内 各巻2,700円

- 1 日本とイエスの顔
- 3 キリストを運んだ男  
—パウロの生涯
- 4 わが師イエスの生涯
- 5 遺稿集  
「南無アッパ」の祈り

好評  
発売中

11月刊

好評  
発売中

好評  
発売中

キリスト教書店員がいちばん読んでほしい本

キリスト教  
本屋大賞2015 大賞受賞作

## エッセイの木

2014年 9月刊行

クリスマスまでの24のお話



ジェラルディン・マコックラン 著  
沢 知恵 訳 池谷陽子 絵

児童文学の名手が紡ぐ、「アダムとエバ」から「イエス」にいたる聖書のお話。

◆A5判 上製・158頁・1,944円

受賞コメント 大賞に選ばれて光栄です。おとなも子どもも、クリスチャンでない人も楽しめる味わい深い物語です。ぜひ！ [訳] 沢 知恵

笑いの中に真理を伝える  
好評のキリスト教エッセイ集、第2弾!

## 一笑懸命 山北宣久



楽しく気軽に読めて、日々の生活の中にある福音への気づきを与えてくれるエッセイ集。  
◆四六判 並製・136頁・1,296円

前著  
好評発売中

天笑人語

山北宣久  
1,296円



# はじめての宗教改革

G・S・サンシヤイン 出村彰／出村伸訳

●四六判・348頁・本体2,400円



ヨーロッパの近代化の出発点となった「宗教改革」。教会内にとどまらず、各地の政治・経済・社会に広く影響を与えた運動の全体像を描き出し、その現代的意義を問う。

# 若者と生きる教会

大嶋重徳

伝道・教会教育・信仰継承

どうすれば若者が教会に集まるのか？ 学生伝道の最前線に立つ著者が、教会を活性化させるための提言を具体的に、実践的に語った講演録。ユーモア満載、誰にでも実践できるヒントがここに！

●A5判・114頁・本体1,200円

# 「きよしこの夜」ものがたり

クリスマスの名曲にやどる光

大塚野百合

●四六判・232頁・本体2,300円



クリスマスの賛美歌「きよしの夜」は、いつどのように作られたのか。聖夜を彩る名曲にまつわる、人に話したくなるエピソード満載の賛美歌エッセイ集。

# メディアにむしばまれる子どもたち

田澤雄作

小児科医からのメッセージ

笑顔のない・大人になれない子どもたちが増えているのはなぜ?! 大人には便利な電子メディアでも、子どもにとっては心身の成長発達を脅かしかねない前代未聞の問題です!

●四六判・200頁・本体1,300円

# 海老名弾正 その生涯と思想

關岡一成

●A5判・574頁・本体6,000円



安中教会、本郷教会の牧師、同志社大学総長などを歴任し、その雄弁と健筆によって多くの人々を感化した海老名弾正。その生涯と思想を膨大な史料に基づいて明らかにする。

9月の新刊 (価格表示は税抜)

「海老名伝」の決定版!

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可  
二〇一五年一〇月一日発行 (毎月一回一日発行)  
本のひろば 第六九三号 二〇一五年一〇月号

発行所 〒100-8345 東京都新宿区新小川町九一ー一 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話〇三三三六〇一七〇ー六五二〇 振替〇〇一七〇一五一一六七九  
発行人 本村利春 編集人 中川忠 印刷所 樺平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三三六〇一五六七〇

定価七八円 (税抜七二円) (千62円)  
一年分一三〇〇円 (送料共)